

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年2月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年2月7日～2月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 126社
- 回収率 63.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より7.2ポイント悪化の▲31.0となった。

2017年9月以来66ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲30.2、当月と比べ0.8ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	先行き見通し 2023年3月～ 2023年5月
業況	▲21.5	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲30.2
売上	10.3	14.4	3.9	▲11.7	▲5.5	▲8.0	▲6.4
採算	▲24.6	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲27.8
仕入単価	▲75.4	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲66.7
販売単価	36.5	32.8	37.3	33.6	29.3	31.8	30.9
従業員	37.3	40.8	40.5	35.2	31.7	30.9	30.1
資金繰り	▲12.7	▲10.4	▲11.9	▲14.8	▲15.1	▲18.2	▲19.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	先行き見通し 2023年3月～ 2023年5月
建設	▲43.3	▲38.7	▲35.5	▲53.1	▲51.8	▲65.5	▲55.2
製造	▲16.7	▲25.9	▲13.8	▲28.6	▲19.3	▲27.6	▲38.0
卸売	▲17.3	▲10.8	▲21.4	▲20.0	▲7.4	▲16.7	▲26.7
小売	▲21.0	▲16.6	▲11.8	▲25.0	▲18.7	▲29.4	▲11.7
サービス	0.0	4.7	▲19.1	▲40.9	▲17.4	▲9.5	▲4.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・業況感に変化ないが、電気料金の値上げによる家計支出の負担感が顕著となっている。更なる手当の支給も検討中。（総合工事） ・工事受注量は、引き続き戸建てを中心に前年同期及び同季 3 ヶ月ともに減少傾向が続いており、上回る気配は感じられない。よって売上高確保のため今まで手掛けていない分野への挑戦が必要と感じている。また、エネルギーや原材料費の高騰、4 月の定昇・ベースアップによる人件費の増加などコストアップに見合う売上転嫁は依然としてできていないため、今後当社の業績は更に落ち込むと予想している。コストアップ分の価格転嫁を進めないといけないと感じている。その中でも人材については、将来を見据え即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他） ・建築単価の上昇による住宅新築マインドの低下のため受注が減少し経営悪化及び大工の採用が不調であり人員不足が懸念される。2 月にプレスリリースされたとおり、注文住宅着工戸数が 34 年ぶりに 1 万戸割れが示すとおり、資材高騰による価格上昇のため業界全体が逆風にさらされている。受注減少は収益悪化を招き、業況はかなり厳しいものと考えている。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・厳冬期になり、燃料費が多くなるのはやむを得ないことだが、利益率を下げている。新規取引先からの問い合わせもあり、取引成立になるよう努力していきたい。（食料品） ・用紙代が 2 月 1 日出荷分から 15%から 20%へ 3 度目の値上げ。コロナ前から 50%の値上げである。販売価格に転嫁しなければ自社努力も限界。用紙だけでなく資材関係や人件費も上げなければいけないがなかなか厳しい。（印刷・出版） ・1 月より木材チップの加工単価上昇が了承され、期末決算に向け業績回復へ期待。従業員募集に対し問い合わせがあるものの応募には至らない。（家具・木材）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・値上げによる客単価上昇の影響で、売上・利益とも前年を超えた。企業納品は堅調である一方、一般消費は鈍化していると感じている。（繊維・衣服） ・設備老朽化に伴う修繕費の増加。電気料金の高騰による販管費の増加。（飲食料品） ・物品・資材等仕入れ価格の上昇から、販売価格も上げざるを得ないが、入札での発注が主であり入札価格の積算に苦慮している。（機械鋼材） ・当月は実質稼働日数が少なく売上については微減に推移。来月以降については資材などの納品が増加する傾向から、前年同月並みに持ち直すものと見込んでいる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響によるライフスタイルに変化があるようだ。ウィークデイ(平日)及び週末(土曜・日曜)は 17 時以降の来店客が全くなく、来店客数を増やす為の対策を考えなければならない。売上が落ち込んでいる。（衣服身回品） ・コロナウイルスの影響による売上減少もほぼ解消。昨年からの仕入価格・光熱費の高騰による業況悪化が見込まれる。仕入価格再値上げもあり、弊社も 4 月頃に価格改定を予定している。原材料・光熱費高騰がいつまで続くか見通せず、相変わらず人手不足の状況にあり今年も昨年より更に厳しくなると思われる。（食料品） ・電気料金や事務用品の値上がりにより営業コストが増加している。販売価格への転嫁が未だ行われず採算性が低下している。物価上昇により、消費者に節約志向が増している。（その他） ・仕入れ価格の高止まりが続いており厳しい。業界も大手の販売店が増え競争も激しくなっている。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響で旅行者が減少し、昨年より売上が少ない。（理美容・クリーニング） ・資材や光熱費が高騰しているが業績への影響は限定的である。一番の課題は新卒・中途採用を含め人材の確保にある。（その他） ・冬まつりがありツアー客や外国人観光客が増えている。コロナも落ち着いてきているので一安心。このまま続くと良い。（飲食） ・乗務員不足が深刻の度を増しており、現在の輸送体制を維持することが困難な状況となった。このため今後、減便・路線再編等による運行の効率化を図ることとなるが、これによる運送収入の減少は避けられず、新型コロナウイルスによる影響が収まっていない中で、更に厳しい状況になると思われる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.5 ポイント悪化、採算 DI10.4 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI3.4 ポイント改善、資金 DI6.9 ポイント悪化、従業員 DI3.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.7 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 20 ポイント、建築業 14 ポイント悪化となった。木材単価は下落傾向にあり、売上も多少の減少が予想される。来期分はある程度確保できているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.4 ポイント改善、採算 DI1.8 ポイント悪化、仕入単価 DI1.2 ポイント悪化、販売単価 DI6.0 ポイント改善、資金 DI0.7 ポイント悪化、従業員 DI1.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.3 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 7 ポイント、金属窯業他 8 ポイント改善、食料品 25 ポイント、印刷・出版 35 ポイント悪化となった。販管費の上昇により売上増の割に利益が伴ってこないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI24.8 ポイント悪化、採算 DI26.7 ポイント悪化、仕入単価 DI4.1 ポイント改善、販売単価 DI5.6 ポイント悪化、資金 DI5.6 ポイント悪化、従業員 DI8.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.3 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 25 ポイント改善、食料品 8 ポイント、機械鋼材 31 ポイント、その他 11 ポイント悪化となった。諸物価上昇のため、経費増加が懸念される。売上単価に転嫁し利益の確保が重要になってくるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI5.6 ポイント悪化、採算 DI4.4 ポイント悪化、仕入単価 DI3.0 ポイント改善、販売単価 DI7.0 ポイント悪化、資金 DI11.7 ポイント悪化、従業員 DI9.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.7 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 8 ポイント、その他 33 ポイント悪化となった。1 月は冬期商戦で苦戦し、軽油・灯油の出荷が悪かった。ガソリンの出荷は観光客(外国人も含め)の入り込みも多く好調との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI25.4 ポイント改善、採算 DI22.6 ポイント改善、仕入単価 DI1.8 ポイント悪化、販売単価 DI11.5 ポイント改善、資金 DI6.7 ポイント改善、従業員 DI4.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.9 ポイント改善となった。業種別では、ホテル・旅館 50 ポイント、その他 25 ポイント悪化、整備業横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、飲食 5 ポイント、運送 50 ポイント改善となった。働き方改革の影響がまだ見えなく、大きな影響が懸念されるとの声も寄せられている。</p>